

F P まつもと通信

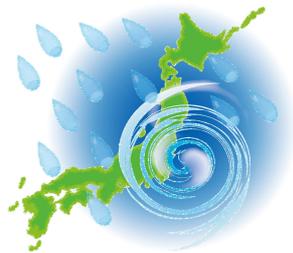
ちょっと得する「お金」や「資産形成」の話題をお届けします。

ご挨拶

9月1日は防災の日です。9月1日を防災の日とした経緯について東京消防庁HPには以下のように記載されています。

「9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあり、また、昭和34（1959）年9月26日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害（全半壊・流失家屋15万3,893戸、浸水家屋36万3,611戸、死者4,700人、行方不明401人、傷者3万8,917人）を被ったことが契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されました。」

今月は備蓄や避難用持ち出しバッグの確認などをしてはいかがでしょうか。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

老後の生活を支える年金の現状は？
今年金を受け取っている人はいくら受取っているの？ 厚生労働省の資料で確認しました。

平均寿命10年ぶりに短く

厚生労働省が先月発表した簡易生命表によると2021年の日本人の平均寿命は男性81.47歳、女性87.57歳と2020年とくらべ男性は0.09歳、女性は0.14歳短くなったようです。

原因は新型コロナウイルスの影響で前年を下回るのは東日本大震災があった2011年以来です。

ところで寿命中位数という言葉は聞いたことがありますか？

寿命中位数とは、同じ年の人がちょうど半分になる年齢で（同級生が半分になったと考えるとイメージしやすいですね）、男性は84.39歳、女性は90.42歳、平均寿命よりもさらに3歳程度長寿ということになります。

令和3年簡易生命表 「寿命中位数等生命表上の生存状況」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life21/dl/life18-03.pdf>

実際には平均寿命よりも長生きする人が多いということになります。

このようなことを踏まえて老後資金準備、高齢期の医療や介護の準備をしておく必要がありますね。



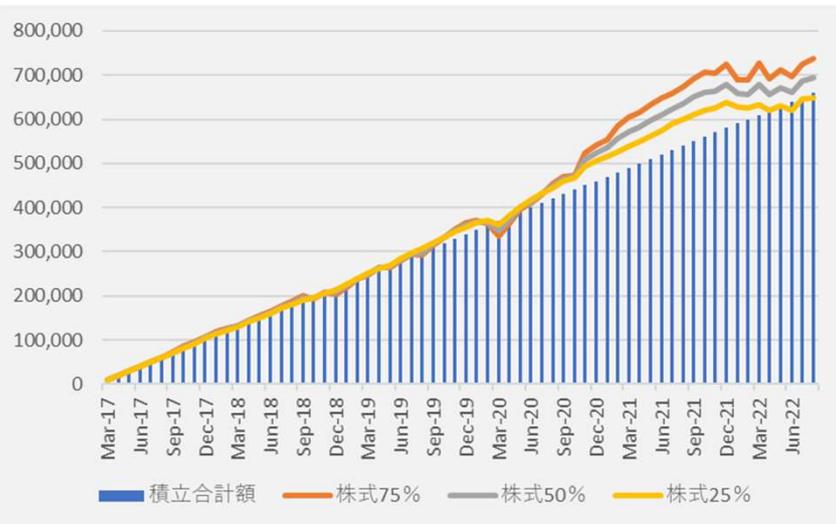
F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

| | 積立合計額 | 株式75% | 株式50% | 株式25% |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| 2022年6月末 | 640,000 | 696,317 | 660,188 | 620,231 |
| 2022年7月末 | 650,000 | 725,242 | 687,322 | 645,916 |
| 2022年8月末 | 660,000 | 738,210 | 695,135 | 648,096 |

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

| | 日経平均 | | NYダウ | | ドル円 |
|-----|-----------|--------|-----------|--------|--------|
| 6月末 | 26,393.04 | -3.25% | 30,775.43 | -6.71% | 135.73 |
| 7月末 | 27,801.64 | 5.34% | 32,845.13 | 6.73% | 133.19 |
| 8月末 | 28,091.53 | 1.04% | 31,510.43 | -4.06% | 139.07 |

利上げ継続で月後半は大幅下落

月半ばにかけてはインフレ懸念が遠のいた、との見方から8月16日には34,000ドルを回復、「年前半の下げ幅の半値戻しを達成」とはやす声もありました。

しかしながら26日にFRBパウエル議長は講演で、記録的なインフレを抑え込むための金融引き締めについて「やり遂げるまでやり続けなければならない」と述べ、利上げを継続する姿勢を鮮明にしました。

これにより、一部にあった「利上げ休止」の期待は無くなり、8月26日には1日で1000ドルを超える大幅下落となりました。

以下は月半ばに半値戻しを達成したときの記事の見出しとパウエル議長講演を受けて下落したときの見出しです。

- 半値戻しで高まる全値戻しへの期待
- 過去の経験則はここから相場が改めて下値を探る可能性は低い
- NYダウ、1008ドル安 FRB議長講演受けリスク回避
- 米利上げのピーク予想3.8%に上振れ 株安継続の見方も

改めて短期的な値動きやそれを解説するニュースに惑わされないことが大切だと感じますね。

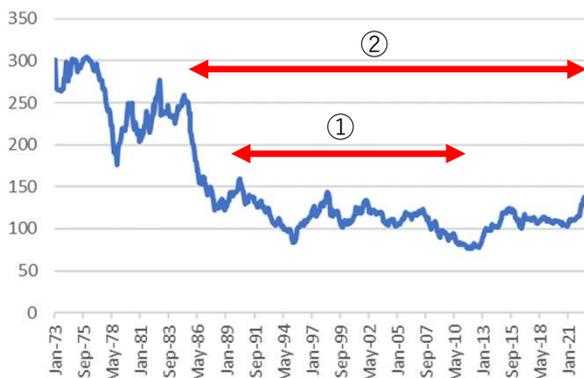
確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

円安の今、外国株式など海外資産の積立を開始しても大丈夫ですか？

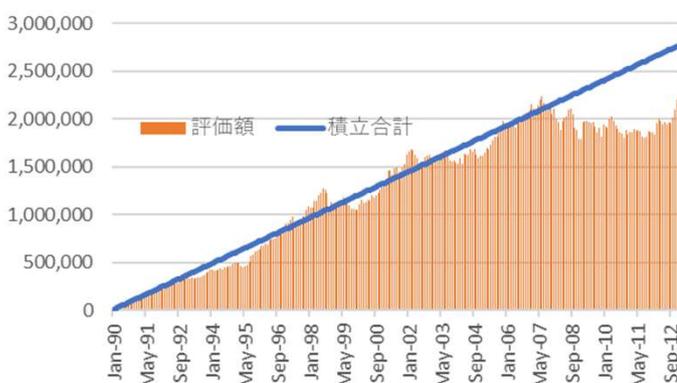
1ドル135円の時に1万ドルを購入するためには135万円必要です。ところが、同じ1万ドルが1ドル80円になると80万円になってしまいます。20年以上ぶりの円安などと聞くと少し心配になると思います。

今月は為替と積立のタイミングについて整理してみましょう。

下図は1973年以降のドル円相場の推移を表しています。

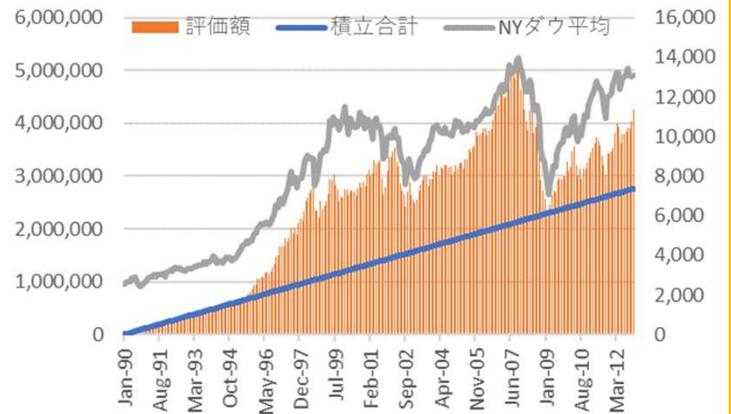


下図は1990年1月から2012年12月までの276カ月（①の期間）、ドルの積立をしていたらどうなっていたかを表したものです。



積立合計276万円に対し円建ての評価額は約220万円と大きくマイナスになっています。このグラフを見る限り、仮に今後円高を予想するなら投資に慎重になった方が良くもかもしれません。

一方下図は同じ時期にNYダウ平均株価に1万円ずつ積立をした場合を表しています。

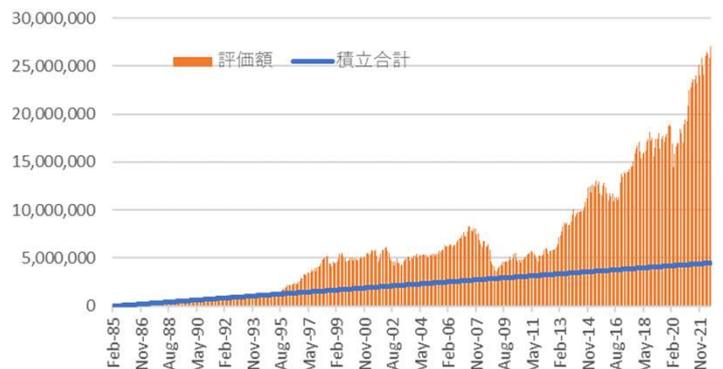


為替は144円が86円と約40%もマイナスになりましたが、NYダウ平均株価は2590ドルから13104ドルとドルベースでは5倍以上になりました。

その結果、為替のマイナスを株価の上昇がカバーして276万円の積立は約426万円となりました。

下図は②の期間（1985年2月～2022年7月）、毎月1万円をNYダウ平均株価に積立をしたケースです。

積立開始時の為替は259円で一貫して円高でした。一方株価は、1284ドルが32,845ドルと25倍（ドルベース）、積立合計450万円は約2700万円になりました。



長期の積立投資では為替の予想をするよりも期待収益が高い株式型の商品に早くから投資を始めて長く続けるのが大切だということがわかります。

ちょっと気になるお金のコラム

52兆1985億円

先月厚生労働省は「厚生年金・国民年金の令和3年度収支決算の概要」を発表しました。

それによると厚生年金の歳出（支給）が48兆4,536億円、国民年金の歳出が3兆7,449億円、合計52兆1985億円でした。

一方歳入は、厚生年金が49兆0,340億円、国民年金が3兆9,433億円でした。

| | 厚生年金 | 国民年金 |
|----|-----------|----------|
| 歳入 | 49兆0340億円 | 3兆9433億円 |
| 歳出 | 48兆4536億円 | 3兆7449億円 |
| 差額 | 5804億円 | 1983億円 |

すでに年金を受け取っている人は受給額に不満はあるかもしれませんが、いまのところ収支は合っていると見ることはできないのでしょうか。

差額は年金積立金に回して運用されています。

| | 厚生年金 | 国民年金 |
|-----|------------|-----------|
| 積立金 | 114兆0139億円 | 7兆7561億円 |
| 時価 | 184兆1928億円 | 10兆5642億円 |

積立金は元本、時価は運用後の評価額なのでこちらも順調と見て良いのではないのでしょうか。

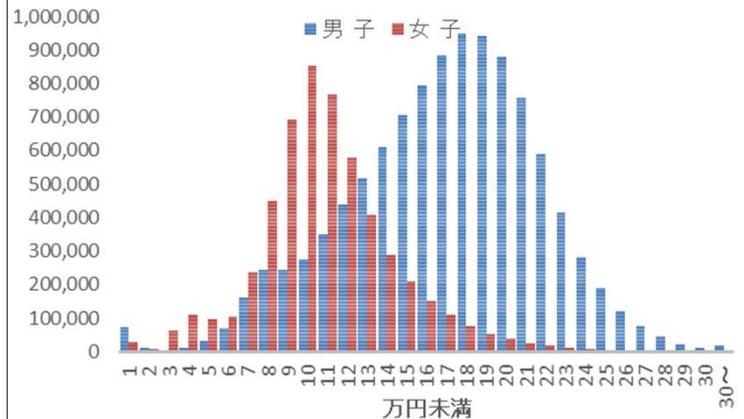
次にこのような収支状況の中、実際に年金を受け取っている人はいくらぐらい受取っているのか見てみましょう。

14万6145円

「令和2年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」によると厚生年金の平均受給額は14万6145円です。

平均額は約14万円なのですが必ずしも自分の受給額が14万円前後になるわけではありません。

下図は男女別の実際の受給額（横軸）とその人数（人・縦軸）を表したものです。



男女ともかなりばらつきがあります。最も人数が多いのは、男性の場合17～18万円、女性は9～10万円です。

こうしてみるとよく耳にする平均値で自分の将来の年金額を想像するのは少し無理があるかもしれません。

今年から年金定期便のはがきに載っているQRコードで簡単に自分の年金の状況を確認することができます（年金アプリ利用の場合）。

一度年金ネットや年金アプリで確認してはいかがでしょうか？